

『潮来市の福祉の現状』

- 高齢化の進行 ○少子化の進展
- 障がい者(児)の増加 ○生活困窮者の増加
- 一人暮らし高齢者の増加 ○要介護認定者の増加

○地域の支え合い・助け合いの必要性の拡大

『計画の進捗状況や評価』

地域福祉計画の進捗状況や評価
「順調」＋「概ね順調」で約80%

【主な成果】

- 相談窓口の充実(地域包括支援センターの充実、障害者基幹相談センターの設置、子ども家庭総合支援拠点の取組、生活困窮者自立支援事業の充実、権利擁護体制など)
- 地域連携が進んだ(障がい者自立支援協議会各部会活動、ケアマネ会議、要保護児童対策協議会)
- 地域資源・人材の発掘開始(生活支援体制整備事業、生活支援コーディネーター2名配置)
- 新たな制度への対応(こども家庭センター設置に向けての検討)

【主な課題】

- 課題1 複雑・複合化する課題への対応
- 課題2 ボランティアなど市民福祉活動の活性化
- 課題3 福祉人材の確保
- 課題4 災害時の対応

地域福祉活動計画の進捗状況や評価
「順調」＋「概ね順調」で約60%

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きい
＝ 直接市民と関わる事業多い

【主な成果】

- 地域包括支援センターの充実
- 地域資源・人材の発掘開始(生活支援体制整備事業、生活支援コーディネーター配置)
- 新たな課題への取組(フードバンク事業など)

『近年の国の動向』

地域共生社会の実現

- 「こども家庭センター」の設置など新たな子育て支援策(子育て分野)
- 認知症支援の充実(高齢分野)
- 地域保健活動の推進

- 複雑・複合化する課題への対応＝重層的支援体制整備事業(地域福祉分野)
- 精神障がい者にも対応できる地域包括ケアシステム(障害分野)
- SDGsの取り組みの推進

『潮来市地域の実情』 民生委員・区長懇談会から

- 地域活動の負担感の増加(疲労感)
- 従来のお付き合いの弱体化
- 地域づくりの担い手の不足

地域課題の深刻化、閉塞感

「地域福祉」への理解不足

- 「8050問題」などは耳にするものの・・・

『地域福祉アンケートの結果』

- ご近所の支え合いは必要とは思いますが、地域共生社会への理解はまだ
- 社会福祉協議会の認知度は約8割
- 社会福祉協議会の細かい内容までは知られていない
- 社会福祉協議会への期待は「専門的で継続的な相談」や「身近な生活支援サービス」が増えてきた
- 中学生・高校生の福祉の仕事への関心は薄い
- 福祉の推進は「行政と市民の協力」は一定浸透
- 障がい者の差別や偏見は「ある」が多数派
- 福祉の相談体制については、「安心感」があると評価
- 地域福祉で重点的に取り組むこと「避難行動要支援者対策」、「相談支援体制」、「情報提供」

- 地域福祉に関する市民の関心の低さ→「地域福祉、地域共生って何？」わかりにくい だから、「我が事意識」の不足
- 基本は「意識啓発」、「情報提供」、「当事者意識」、「制度や仕組み、組織のPR」
- ⇒「福祉」に対する理解が図られれば自分も変わる

『総合計画アンケートの結果』

- 地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉は全施策の平均的位置(満足度も重要度も真ん中付近)
- 子育て支援については、満足度も重要度も高い評価
- 前回と比べると…【満足度】子育て支援は上昇、地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉は横ばい。【重要度】地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉はやや上昇、子育て支援は横ばい
- 制度についての理解を深めることが課題
- 制度について理解が浅いから平均値になっている

『新しい計画に向けてのキーワード』

地域共生社会の実現

■ キーワード1 ■

気づき

○「地域福祉」への理解不足【潮来の弱み】

- 地域での支え合い・助け合いの必要性は広がっている
- しかし、一方では地域課題の深刻化へのあきらめ感や閉塞感がある
- 「地域福祉の理解促進」が大切

◆何に気づけばいいの…。例えば、こんなこと、こんなことに気づいて

- ・福祉に実はお世話になっていること
- ・地域福祉はとても身近なもの
- ・地域福祉はこれからますます大切になっていく
- ・地域福祉は私たちの暮らしを支えている

- ・福祉を必要としている人に行き届いていない
- ・自分の身の回りでそんな人がいないか
- ・実は「福祉」から目を背けていた自分がいる、見て見ぬふりをしていた自分がいる

他人事から
我が事へ

■ キーワード2 ■

つなぐ

○相談窓口の充実【潮来の強み】
○地域連携が進んだ【潮来の強み】

- 「制度を使ってもっと幸せに」なる
- コロナ禍で途切れた、地域の支え合い・助け合いなどをつなぎ直そう

◆何のためにつなぐの…。

- ・人は人とつながって生きているから
- ・人と「しくみ・サービス」をつないできっかけをつくる
- ・つながれば、いつでも支えることができる

◆何と何をつなぐの

- ・「人」と「人」
- ・「制度」や「組織」、「機関」をつなぐ
- ・「つなぎ」のまとめ役がいるから大丈夫、安心感

■ キーワード3 ■

笑顔

○地域共生社会はみんなが支え合い・助け合っ
て誰もが幸せを実感できる社会 ⇒「笑顔」

現計画《基本理念》

みんなで変える!変わる!
潮来の福祉
～福祉先進都市を目指して～

「福祉先進都市」というイメージが分かりにくい
「福祉制度」や「福祉サービス」の先進性に目が行き
がち、制度やサービスは手段であって目的ではない

潮来市の現状を見れば求めるものは、地域を支える
「福祉の意識」の醸成

「変える」とか「変わる」は、潮来市の現状からも変
えたいし変わっていきたい

新計画《基本理念》

私が変わる! まちが変わる! みんなが支える
潮来の福祉
～笑顔で暮らせるまちづくり～

『私』 = 市民一人ひとり

『変わる』 = 福祉にふれて、福祉を知って、福祉
に携わって

『まち』 = 潮来のまち全体が

『支える』 = 地域の助け合い、支え合いの太い絆
でつながっていく

『笑顔』 = 地域共生社会

新計画《施策体系》

基本目標1 気づいて しかわせ 私の笑顔

福祉に気づいて しかわせを実感しよう

基本方針1 福祉の制度や仕組みを知ろう

(行政の取組:意識啓発・福祉教育の推進等)

■とにかく、福祉に関する啓発活動を活発に イチから始める福祉の話

基本方針2 困っている人や福祉に目を向けよう

(行政の取組:情報提供・見守り支援・ボランティア支援、人材育成等)

■まわりの人に関心の持てる人になる 福祉のアンテナの高い人になる
福祉人材育成 PR、ヤングケアラーやひきこもりの人にも関心を持とう

基本目標2 つないで しかわせ みんなの笑顔

課題を解決でき しかわせを実感しよう

基本方針3 誰もが相談できるようにしよう

(行政の取組:相談窓口の周知 相談体制の整備充実)

■相談できない人を無くそう 相談してよかったと思えるようにしよう

基本方針4 誰もが生きがいをもって生活を送ろう

(行政の取組:地域連携、サービス提供基盤、市民協働)

■地域全体で支える体制、高齢・障がい・児童などの各サービス提供基盤
を充実させる

基本目標3 支えて しかわせ 笑顔のあるまちづくり

(行政の取組:多機関連携 市民協働 サービス提供基盤整備)

基本方針5 自分らしく暮らせるまちにしよう

(行政の取組:権利擁護、成年後見制度、文化・芸術・スポーツ活動等)

■将来に不安のない暮らし 自己実現する

基本方針6 安全安心に暮らせるまちにしよう

(行政の取組:避難行動要支援者、福祉避難所、バリアフリー等)

■今に不安のない暮らし

現計画の基本目標・施策体系

基本目標1 福祉が必要な人を見逃さない地域づくり

- (1) 地域で信頼される人材の育成
- (2) 情報の共有
- (3) 福祉意識の醸成

拡充

基本目標2 課題を解決できる地域づくり

- (1) 福祉・保健拠点の整備
- (2) 総合相談体制の整備

継続

基本目標3 サービスの切れ目と隙間のない地域づくり

- (1) 高齢者福祉・介護保険事業の充実
- (2) 障がい者(児)福祉の充実
- (3) 児童福祉・子育て支援の充実
- (4) 生活困窮者支援の充実

継続

基本目標4 生活の質の向上

- (1) 地域福祉活動の充実
- (2) 権利擁護に対する支援
- (3) 防犯・防災体制の充実
- (4) 福祉のまちづくりの充実

拡充

見直しの主な視点

潮来の弱みの克服。福祉に対する「気づき」
の促進を第一。地域人材だけでなく福祉専門
職やサービス提供人材の確保・育成も。ヤン
グケアラー、ひきこもりなども気づきの対象
として検討を図る。

潮来の強みをより強固に。相談窓口の周知、
地域連携などの更なる体制整備等を図る。

つなぎ(相談支援)とサービス提供基盤を一体
として推進を図る。
(つなぎ=サービス提供)

成年後見制度の普及などを充実。防犯・防災
体制の充実も大切。そして、誰でも文化・芸
術・スポーツに触れ合える機会等を図る。